

## 岩手と世界の架け橋として

藤村 侑可

私は、これまで家族旅行や海外からの留学生達のホストファミリー経験、そして一年間のカナダ留学など、他国の人達や文化に触れる機会が数多くありました。

文化の多様化が著しいカナダへの留学で、私は日本とは異なる文化に実際に触れ、様々なことを得ることができましたし、留学したことによって他国の言語や文化をもっと学びたいと思うようになったのです。また、自分が学ぶだけではなく私からも他国の人達に日本、そして岩手について教えたり、理解してもらえるようになればと思っています。

岩手県には国の天然記念物である石割桜がありますが、石割桜は国の天然記念物である以前に岩手の遺産だと思っています。私の祖父と曾祖父は庭師で石割桜の世話をしていました。そのせいもあって私は石割桜をとて身近に、そして誇りに思っています。私は祖父と曾祖父が命をかけて守ってきた石割桜、その素晴らしさを世界に伝えていきたい、そう思っています。

また、私の高校では神父様がいらしてお話をしてくださるのですが、ご自身が実際にカンボジアでボランティア活動などをしていらっしゃる神父様からお話をお聞きする機会がありました。そして世界の貧しい国々の現状を知りました。私はボランティア活動が好きで高校生活の中でも様々なボランティア活動に参加してきましたが、この時はっきりと世界に目を向けて貧しい人達のために貢献したいと考えるようになりました。

私は将来、国際交流を通じ困っている人達を援助できるような人間になりたいです。そのために私は何ができるのか…。

ゴールドトライアングルといわれるミャンマー、タイ、ラオスの山岳地帯では作物が育たず、貧しい農家の大きな収入源として違法なケシ栽培が後を絶ちません。彼らは好きでやっているのではなく他に生きていくための手段を知らないためケシ栽培に手を染めなければなりません。しかしその一方でケシの栽培をやめさせるために代替作物として寒さに強く高地栽培もできるソバなどが取り入れられ、アヘンからソバへの更なる転換を促す努力が国際協力により行われています。また、ソバの取り入れにより合法的で安定した収入源を確保することで、貧困緩和や争いごとの減少など好ましい結果をもたらしています。

例えば、岩手は県土が広く、日本でも食料自給率が非常に高く、農業技術も優れています。そのスキルを活かして、ゴールドトライアングルのように貧しい国々に農業技術を指導し、その結果得た原料をフェアトレードの精神に則って公正な貿易のもと日本に輸入、そして岩手で昔から親しまれている食品などに加工して世界へ輸出するのもひとつの方法だと思っています。また、世界でボランティア活動が活発に行われている機関と提携し、今や世界中に普及しているインターネットを利用するなどしてそれらの製品を世界に発信すればゴールドトライアングルのような貧困地帯を救うことができるし国際間の交流もできるのではないのでしょうか。

私たち人類は、今まで資源を使うだけ使ってゴミを沢山出してきました。しかし今、大量消費の時代は過去のものとなり、身の周りの自然環境や食材が見直されています。牛肉の大量消費がその良い例です。私も肉類は大好きでよく食べますが、先進国では必要以上に牛などを食用に飼育し繁殖させています。世界全体の年間穀物生産量は毎年約二〇億トンで、一二〇億人が生きるのに十分な量です。世界人口は約六〇億人ですから、かなりの余裕があるはずですが。しかし穀物生産量の四割が家畜用の飼料となり、現在は先進工業国の食料過剰の一方で、発展途上国では五人に一人が栄養不足で苦しんでいます。更に、牛がゲップをすることによって二酸化炭素が多く排出されオゾン層破壊にもつながっているとされています。そこで昨今の自然食・日本食ブームの追い風によって、岩手の雑穀、お米、野菜などを世界に紹介し、岩手の

産業を活性化させることにより、自然環境を守る一端を担い、且つ国際交流やボランティア活動にも通じることになると思います。人類は食料採取、農業、商業、工業、情報化、と時代を経てきました。次に来るのはどのような時代なのでしょう。私は人と人、人と自然が共存できる時代を願っています。

高校卒業後、私は大学に進学して海外の言語や文化、情勢等を学びたいと思っています。その後は大学で学んだことを活かし、十年後には自分が生まれ育った岩手と世界の架け橋になりたいです。